

東京愛犬専門学校 動物看護学科 ※2024年度開講済みのため2025年度開講無し。

授業科目	生命倫理・動物福祉	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	講義
担当教員	堀内香（獣医師）		
授業概要	生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。		
到達目標	生命倫理の概念、動物福祉の概念、愛玩動物の福祉、産業動物の福祉、実験動物の福祉、展示動物の福祉について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻 生命倫理・動物福祉		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

授業計画及び学習の内容

1	第1章生命倫理の概念と様々な動物観	生命倫理の考え方・生命倫理と獣医療の関わり
2	第1章生命倫理の概念と様々な動物観	動物に対する様々な考え方と影響を与える要因・動物観の歴史的変遷
3	第2章動物福祉の概念	動物福祉とは・近代の動物愛護運動
4	第2章動物福祉の概念	現代の動物愛護運動・動物の権利と動物福祉
5	第2章動物福祉の概念	日本における動物愛護と世界における動物福祉・動物病院での安楽死の考え方
6	第3章動物福祉の評価	動物福祉の評価とは・動物福祉の生理学的指標
7	第3章動物福祉の評価	動物福祉の行動学的指標・課題
8	第4章動物福祉と社会	動物福祉と社会・法律と動物福祉
9	第4章動物福祉と社会	経済活動と動物福祉・動物福祉教育・動物保護活動
10	第5章愛玩動物の福祉	愛玩動物の飼育の現状と福祉
11	第5章愛玩動物の福祉	家庭での適正飼養と動物福祉上の問題
12	第5章愛玩動物の福祉	愛玩動物の繁殖・流通・利用に関する福祉上の問題
13	第5章愛玩動物の福祉	飼育放棄と飼い主のいない犬・猫の問題
14	第5章愛玩動物の福祉	愛玩動物福祉のための対策
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第6章産業動物の福祉	産業動物福祉改善の歴史と定義
17	第6章産業動物の福祉	産業動物の飼養の概況と動物福祉の課題
18	第6章産業動物の福祉	産業動物における福祉上の主たる問題
19	第7章実験動物の福祉	産業動物に関する国際的福祉基準・動物福祉向上の方策
20	第7章実験動物の福祉	実験動物の福祉と動物実験に関する法規制・3Rの原則
21	第7章実験動物の福祉	環境エンリッチメント・獣医学的ケア
22	第7章実験動物の福祉	実験動物の苦痛の評価・安楽死を伴わない動物実験・労働安全衛生
23	第8章展示動物および使役動物の福祉	展示動物の福祉
24	第8章展示動物および使役動物の福祉	展示動物の福祉
25	第8章展示動物および使役動物の福祉	使役動物の福祉-身体障害補助犬(補助犬)を中心に-
26	第8章展示動物および使役動物の福祉	使役動物の福祉-身体障害補助犬(補助犬)を中心に-
27	第9章野生動物の福祉	野生動物の福祉
28	第9章野生動物の福祉	野生動物の福祉に関する諸問題
29	第9章野生動物の福祉	対策と課題
30	ふりかえり	ふりかえり

# 東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物栄養学 I	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	講義
担当教員	今瑞穂（愛玩動物看護師）		
授業概要	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療食の特色や給餌方法などを修得する。		
到達目標	基礎栄養、栄養要求量、フードと栄養指導、疾患と栄養、強制給餌と経管・静脈栄養法について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻 動物栄養学		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

## 授業計画及び学習の内容

1	第1章犬・猫の基礎栄養	栄養と栄養素
2	第1章犬・猫の基礎栄養	栄養と栄養素
3	第1章犬・猫の基礎栄養	栄養と栄養素
4	第1章犬・猫の基礎栄養	犬・猫の食性・摂食行動・嗜好性・異嗜・摂食量・飲水量
5	第1章犬・猫の基礎栄養	犬・猫に与えてはいけない食材・添加物(禁忌食)
6	第1章犬・猫の基礎栄養	犬・猫に与えてはいけない食材・添加物(禁忌食)
7	第2章栄養評価法	犬と猫のエネルギー評価
8	第2章栄養評価法	犬と猫の栄養要求ガイドライン
9	第2章栄養評価法	犬と猫の栄養要求ガイドライン
10	第2章栄養評価法	犬と猫のライフステージと栄養
11	第2章栄養評価法	犬と猫のライフステージと栄養
12	第2章栄養評価法	犬と猫のライフステージと栄養
13	第2章栄養評価法	犬と猫の栄養状態評価法
14	第2章栄養評価法	犬と猫の栄養状態評価法
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第3章フード	ペットフードの歴史
17	第3章フード	ペットフードの種類
18	第3章フード	ペットフードの製造方法
19	第3章フード	ペットフードに使用される原料
20	第3章フード	ペットフードに使用される原料
21	第3章フード	ペットフードに使用される原料
22	第3章フード	サプリメント
23	第3章フード	サプリメント
24	第3章フード	サプリメント
25	第3章フード	ペットフードの法の規制
26	第4章栄養指導	適正給与量「どのくらいフードを与えればよいのか？」
27	第4章栄養指導	適正給与量「どのくらいフードを与えればよいのか？」
28	第4章栄養指導	フードの選択「どんなフードを与えればよいのか？」
29	第4章栄養指導	フードの選択「どんなフードを与えればよいのか？」
30	ふりかえり	ふりかえり

# 東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物栄養学Ⅱ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	講義
担当教員	今瑞穂（愛玩動物看護師）		
授業概要	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。		
到達目標	基礎栄養、栄養要求量、フードと栄養指導、疾患と栄養、強制給餌と経管・静脈栄養法について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻 動物栄養学		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

## 授業計画及び学習の内容

1	第4章栄養指導	肥満
2	第4章栄養指導	肥満
3	第4章栄養指導	肥満
4	第5章疾患と栄養の関係	慢性腎臓病の栄養管理
5	第5章疾患と栄養の関係	慢性腎臓病の栄養管理
6	第5章疾患と栄養の関係	慢性腎臓病の栄養管理
7	第5章疾患と栄養の関係	尿石症の栄養管理
8	第5章疾患と栄養の関係	尿石症の栄養管理
9	第5章疾患と栄養の関係	尿石症の栄養管理
10	第5章疾患と栄養の関係	消化器疾患の栄養管理
11	第5章疾患と栄養の関係	消化器疾患の栄養管理
12	第5章疾患と栄養の関係	消化器疾患の栄養管理
13	第5章疾患と栄養の関係	心疾患の栄養管理
14	第5章疾患と栄養の関係	心疾患の栄養管理
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第5章疾患と栄養の関係	肝疾患の栄養管理
17	第5章疾患と栄養の関係	肝疾患の栄養管理
18	第5章疾患と栄養の関係	肝疾患の栄養管理
19	第5章疾患と栄養の関係	皮膚疾患・アレルギー疾患の栄養管理
20	第5章疾患と栄養の関係	皮膚疾患・アレルギー疾患の栄養管理
21	第5章疾患と栄養の関係	皮膚疾患・アレルギー疾患の栄養管理
22	第5章疾患と栄養の関係	糖尿病の栄養管理
23	第5章疾患と栄養の関係	糖尿病の栄養管理
24	第5章疾患と栄養の関係	糖尿病の栄養管理
25	第6章栄養管理	経口栄養剤の成分と利用法
26	第6章栄養管理	強制給餌法
27	第6章栄養管理	経胃栄養剤と経腸栄養剤の成分・利用法
28	第6章栄養管理	設置したカテーテルの維持管理方法
29	第6章栄養管理	食事管理失宜による症状および対応方法
30	ふりかえり	ふりかえり

# 東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物病理学	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	講義
担当教員	池田亜希子(獣医師)		
授業概要	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。		
到達目標	動物病理学の基礎、細胞や組織に生じる変化、循環障害、炎症、腫瘍、先天異常について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書2巻 動物病理学		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

## 授業計画及び学習の内容

1	第1章動物病理学の基礎	病理学とは・病理検査技術
2	第1章動物病理学の基礎	病理検査技術
3	第1章動物病理学の基礎	病因
4	第1章動物病理学の基礎	内因
5	第1章動物病理学の基礎	外因(環境要因)
6	第2章傷害と細胞死	代謝障害と変性
7	第2章傷害と細胞死	代謝障害と変性
8	第2章傷害と細胞死	萎縮・壊死とアポトーシス
9	第3章細胞や組織の修復と再生	細胞増殖のメカニズム
10	第3章細胞や組織の修復と再生	細胞傷害に対する細胞の適応
11	第3章細胞や組織の修復と再生	創傷の分類と病的損傷
12	第3章細胞や組織の修復と再生	創傷の分類と病的損傷
13	第3章細胞や組織の修復と再生	組織・細胞の修復と再生
14	第3章細胞や組織の修復と再生	組織・細胞の修復と再生
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第4章循環障害	血液の循環傷害
17	第4章循環障害	組織液の循環障害・ショック
18	第5章炎症	炎症の定義・原因
19	第5章炎症	炎症による形態的变化
20	第5章炎症	炎症の分類
21	第5章炎症	炎症の分類
22	第6章腫瘍	腫瘍の定義・腫瘍の形態学的特徴
23	第6章腫瘍	腫瘍の分類と命名
24	第6章腫瘍	腫瘍の増殖
25	第6章腫瘍	腫瘍の宿主への影響 腫瘍免疫
26	第6章腫瘍	腫瘍の原因・発生のメカニズム
27	第6章腫瘍	腫瘍の種類
28	第7章先天異常	遺伝子・染色体異常
29	第7章先天異常	発生異常と奇形
30	ふりかえり	ふりかえり

# 東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物薬理学 I	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	講義
担当教員	池田亜希子(獣医師)		
授業概要	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。		
到達目標	動物薬理学の基礎、愛玩動物看護師による薬物の取扱い、神経系に作用する薬物、呼吸器系に作用する薬物、循環器、泌尿器に作用する薬物、消化器に作用する薬物、オータコイド、代謝、内分泌系の薬物、血液、免疫系に作用する薬物、感染症の治療、予防に用いられる薬物、悪性腫瘍の治療に用いられる薬物について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書2巻 動物薬理学・動物病理学		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		
<b>授業計画及び学習の内容</b>			
1	第1章愛玩動物看護師による薬物の取扱い	薬理学概論・医薬品の基準と分類	
2	第1章愛玩動物看護師による薬物の取扱い	医薬品の開発	
3	第2章動物薬理学の基礎	薬と薬理作用・薬理作用の発現機構	
4	第2章動物薬理学の基礎	薬の剤形と投与方法	
5	第2章動物薬理学の基礎	生体内での薬の動態(吸収・分布・代謝・排泄)	
6	第2章動物薬理学の基礎	薬効に影響を与える因子	
7	第2章動物薬理学の基礎	薬の有害作用	
8	第3章神経系に作用する薬	神経系の基本的事項	
9	第3章神経系に作用する薬	神経系の基本的事項	
10	第3章神経系に作用する薬	全身麻酔薬・局所麻酔薬	
11	第3章神経系に作用する薬	鎮痛薬・骨格筋弛緩薬	
12	第3章神経系に作用する薬	鎮静薬・抗痙攣薬	
13	第3章神経系に作用する薬	問題行動の治療薬	
14	第3章神経系に作用する薬	問題行動の治療薬	
15	ふりかえり	ふりかえり	
16	第4章呼吸器系に作用する薬物	呼吸興奮薬	
17	第4章呼吸器系に作用する薬物	鎮咳薬	
18	第4章呼吸器系に作用する薬物	抗喘息薬(気管支拡張薬)	
19	第5章循環器・泌尿器に作用する薬物	血管拡張薬(降圧薬)	
20	第5章循環器・泌尿器に作用する薬物	心不全治療薬	
21	第5章循環器・泌尿器に作用する薬物	抗不整脈薬	
22	第5章循環器・泌尿器に作用する薬物	利尿薬	
23	第5章循環器・泌尿器に作用する薬物	抗利尿薬	
24	第6章消化器に作用する薬	制吐薬と催吐薬	
25	第6章消化器に作用する薬	抗潰瘍薬	
26	第6章消化器に作用する薬	消化管運動促進(調整)薬および鎮静薬(鎮痙薬)	
27	第6章消化器に作用する薬	止瀉薬(制瀉薬)	
28	第6章消化器に作用する薬	瀉下薬(緩下薬)	
29	第6章消化器に作用する薬	肝・膵疾患の治療薬	
30	ふりかえり	ふりかえり	

# 東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物薬理学Ⅱ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	講義
担当教員	池田亜希子(獣医師)		
授業概要	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。		
到達目標	動物薬理学の基礎、愛玩動物看護師による薬物の取扱い、神経系に作用する薬物、呼吸器系に作用する薬物、循環器、泌尿器に作用する薬物、消化器に作用する薬物、オータコイド、代謝、内分泌系の薬物、血液、免疫系に作用する薬物、感染症の治療、予防に用いられる薬物、悪性腫瘍の治療に用いられる薬物について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書2巻 動物薬理学・動物病理学		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		
<b>授業計画及び学習の内容</b>			
1	第7章オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	オータコイド	
2	第7章オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	オータコイド	
3	第7章オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	抗炎症薬	
4	第7章オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	糖尿病治療薬	
5	第7章オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	甲状腺機能障害の治療薬	
6	第7章オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	脂質代謝異常の治療薬・骨代謝異常の治療薬	
7	第8章血液に作用する薬	貧血の発生機序と抗貧血薬	
8	第8章血液に作用する薬	血液凝固阻害薬	
9	第8章血液に作用する薬	血液凝固促進薬(止血剤)	
10	第9章免疫系に作用する薬	免疫に影響を与える薬・免疫抑制薬	
11	第9章免疫系に作用する薬	免疫に影響を与える薬・免疫抑制薬	
12	第9章免疫系に作用する薬	免疫に影響を与える薬・免疫抑制薬	
13	第9章免疫系に作用する薬	ワクチン	
14	第9章免疫系に作用する薬	ワクチン	
15	ふりかえり	ふりかえり	
16	第10章化学療法薬	抗腫瘍薬	
17	第10章化学療法薬	抗腫瘍薬	
18	第10章化学療法薬	抗腫瘍薬	
19	第10章化学療法薬	抗菌薬・抗真菌薬	
20	第10章化学療法薬	抗菌薬・抗真菌薬	
21	第10章化学療法薬	抗菌薬・抗真菌薬	
22	第10章化学療法薬	駆虫薬・抗原虫薬	
23	第10章化学療法薬	駆虫薬・抗原虫薬	
24	第10章化学療法薬	駆虫薬・抗原虫薬	
25	第10章化学療法薬	殺虫薬	
26	第10章化学療法薬	殺虫薬	
27	第10章化学療法薬	消毒薬	
28	第10章化学療法薬	消毒薬	
29	第10章化学療法薬	消毒薬	
30	ふりかえり	ふりかえり	

# 東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物感染症学 I	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	講義
担当教員	堀内香(獣医師)		
授業概要	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。		
到達目標	微生物の分類と特徴・微生物検査・寄生虫の分類と特徴・動物感染症・免疫学の基礎と応用について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書3巻 動物感染症学		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		
<b>授業計画及び学習の内容</b>			
1	第1章1序論	微生物、感染症および微生物学の歴史	
2	第1章2ウイルス学総論	ウイルスの分類	
3	第1章2ウイルス学総論	ウイルスの大きさ・構造	
4	第1章2ウイルス学総論	ウイルスの増殖・感染・変異	
5	第1章2ウイルス学総論	ウイルスの伝播	
6	第1章2ウイルス学総論	ウイルスの伝播	
7	第1章3細菌学総論	細菌の分類・細菌の大きさ・形態・構造	
8	第1章3細菌学総論	細菌の増殖・代謝・遺伝子	
9	第1章3細菌学総論	細菌の感染・発症	
10	第1章4真菌学総論	真菌の分類と特徴	
11	第1章4真菌学総論	真菌の増殖に関わる要因・真菌の増殖様式と真菌種名	
12	第1章4真菌学総論	人獣共通感染症としての真菌	
13	第1章5プリオン総論	プリオン病	
14	第1章5プリオン総論	プリオン病	
15	ふりかえり	ふりかえり	
16	第1章6微生物検査法	微生物検査におけるバイオセーフティ	
17	第1章6微生物検査法	滅菌と消毒	
18	第1章6微生物検査法	ウイルス検査法	
19	第1章6微生物検査法	細菌検査法	
20	第1章6微生物検査法	真菌検査法	
21	第1章6微生物検査法	プリオン病の検査・診断法・薬剤感受性試験・PCR検査法	
22	第1章7免疫応答の異常	自己免疫による疾患	
23	第1章7免疫応答の異常	免疫異常による疾患	
24	第1章7免疫応答の異常	移植における免疫反応	
25	第1章8動物感染症	病原体の感染経路と伝播様式	
26	第1章8動物感染症	感染症の成立要因と統御要因	
27	第1章8動物感染症	感染症と病原体および生体防御機構	
28	第1章8動物感染症	ワクチンの原理と種類、接種プログラム	
29	第1章8動物感染症	治療に用いる抗ウイルス薬・抗菌薬・薬剤耐性菌	
30	ふりかえり	ふりかえり	

# 東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物感染症学Ⅱ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	講義
担当教員	堀内香(獣医師)		
授業概要	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。		
到達目標	微生物の分類と特徴・微生物検査・寄生虫の分類と特徴・動物感染症・免疫学の基礎と応用について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書3巻 動物感染症学		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		
<b>授業計画及び学習の内容</b>			
1	第1章9感染症の防御	農林水産省行政による動物感染症対策	
2	第1章9感染症の防御	厚生労働省による動物由来感染症対策	
3	第1章10感染症各論	犬と猫の感染症:狂犬病・犬ジステンパー・犬伝染性肝炎	
4	第1章10感染症各論	犬伝染性気管気管支炎(ケンネルコフ)・犬パラインフルエンザ感染症	
5	第1章10感染症各論	犬パルボウイルス感染症・犬コロナウイルス感染症	
6	第1章10感染症各論	猫ウイルス性鼻気管炎(猫ヘルペス1型)、猫カリシウイルス感染症	
7	第1章10感染症各論	猫汎白血球減少症(猫パルボ)、猫白血病ウイルス感染症	
8	第1章10感染症各論	猫免疫不全ウイルス感染症、猫コロナウイルス感染症、猫SFTS	
9	第1章10感染症各論	レプトスピラ症、ブルセラ症	
10	第1章10感染症各論	クラミジア症、猫ヘモプラズマ症(赤血球マイコプラズマ症)	
11	第1章10感染症各論	真菌症 皮膚糸状菌症	
12	第1章10感染症各論	真菌症 皮膚糸状菌症	
13	第1章10感染症各論	ウイルス病:口蹄疫、牛伝染性リンパ腫、牛ウイルス性下痢	
14	第1章10感染症各論	アカバネ病、豚流行性下痢、豚熱(CSF)、アフリカ豚熱(ASF)・高病原性鳥インフルエンザ	
15	第1章11感染症各論	ふりかえり	
16	第1章10感染症各論	細菌病:乳房炎、ヨーネ病、牛の肺炎、炭疽	
17	第1章10感染症各論	プリオン病、スクレイピー、牛海綿状脳症	
18	第1章10感染症各論	実験動物の感染症、序論	
19	第1章10感染症各論	ウイルス病:センダイウイルス感染症・マウス肝炎ウイルス感染症	
20	第1章10感染症各論	唾液性涙腺炎・エクトロメリアウイルス感染症・ハンタウイルス感染症	
21	第1章10感染症各論	細菌病:サルモネラ症・肺マイコプラズマ症	
22	第1章10感染症各論	ティザー病、ネズミコリネ菌感染症	
23	第1章10感染症各論	エキゾチックペット、野生動物の感染症:アリューシャン病	
24	第1章10感染症各論	オウム嘴羽病	
25	第1章10感染症各論	ニホンカモシカのパラポックスウイルス感染症(伝染性膿疱性皮膚炎)	
26	第1章10感染症各論	細菌病:ウェットテイル(増殖性回腸炎)、ウサギのトレポネーマ症	
27	第1章10感染症各論	モルモットの頸部リンパ節炎、鯨類のブルセラ病	
28	第1章10感染症各論	飼育下の野生動物のエルシニア症	
29	第1章10感染症各論	真菌症:メガバクテリウム症、鳥類のアスペルギルス症	
30	ふりかえり	ふりかえり	

# 東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物内科看護学Ⅲ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	講義
担当教員	安田一敏(獣医師)・佐々木ルリ工(獣医師)・菅谷茜(獣医師)		
授業概要	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。		
到達目標	心電図、血圧に関わる技術、X線検査とCT/MRIに関わる技術、超音波検査に関わる技術、内視鏡検査に関わる技術、神経学的検査に関わる技術、眼科検査に関わる技術、皮膚と耳の検査に関わる技術について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻動物内科看護学		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		
<b>授業計画及び学習の内容</b>			
1	第10章心電図と血圧測定に関わる技術	心電計の分類と構造	
2	第10章心電図と血圧測定に関わる技術	心電図検査の実際	
3	第10章心電図と血圧測定に関わる技術	心電図の評価	
4	第10章心電図と血圧測定に関わる技術	血圧測定法と血圧計の構造	
5	第10章心電図と血圧測定に関わる技術	血圧測定の実際	
6	第10章心電図と血圧測定に関わる技術	血圧の評価	
7	第12章超音波検査に関わる技術	超音波診断装置の原理と構造、超音波検査の実際	
8	第12章超音波検査に関わる技術	超音波診断装置の原理と構造、超音波検査の実際	
9	第12章超音波検査に関わる技術	超音波検査でわかること、超音波診断装置を用いた特殊な検査	
10	第11章X線検査に関わる技術	X線検査の目的と動物看護師の役割、放射線とX線撮影の原理	
11	第11章X線検査に関わる技術	撮影条件とX線フィルム、撮影体位と方法	
12	第11章X線検査に関わる技術	造影検査、フィルムの現像と読影準備、透視撮影とコンピュータX線撮影法、被曝と被曝管理	
13	第14章その他の画像検査に関わる技術	コンピュータ断層撮影法(CT)	
14	第14章その他の画像検査に関わる技術	磁気共鳴画像法(MRI)	
15	第14章その他の画像検査に関わる技術	核医学検査	
16	第13章内視鏡検査に関わる技術	内視鏡の分類と構造・消化器内視鏡検査の実際	
17	第13章内視鏡検査に関わる技術	スコープの洗浄と消毒	
18	第13章内視鏡検査に関わる技術	その他の内視鏡検査	
19	第15章神経学的検査に関わる技術	検査環境、必要な道具	
20	第15章神経学的検査に関わる技術	実際の検査方法	
21	第15章神経学的検査に関わる技術	実際の検査方法	
22	第16章眼科検査に関わる技術	視覚検査	
23	第16章眼科検査に関わる技術	眼科神経学的検査	
24	第16章眼科検査に関わる技術	シルマー試験・眼圧測定	
25	第16章眼科検査に関わる技術	細隙灯顕微鏡検査・フルオレセイン染色	
26	第16章眼科検査に関わる技術	眼底検査・その他の眼科検査	
27	第16章眼科検査に関わる技術	眼底検査・その他の眼科検査	
28	第17章皮膚と耳の検査に関わる技術	皮膚科の検査	
29	第17章皮膚と耳の検査に関わる技術	耳介の検査・耳道の検査	
30	ふりかえり	ふりかえり	

# 東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物外科看護学 I	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	講義
担当教員	菅谷茜(獣医師)		
授業概要	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。		
到達目標	外傷、創傷管理、術前準備、麻酔、術中補助、術後管理、救急救命、動物理学療法について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻 動物外科看護学		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

## 授業計画及び学習の内容

1	第1章手術チームでの動物看護師の役割と準備	手術チームにおける動物看護師の役割・手術室に入るとき
2	第1章手術チームでの動物看護師の役割と準備	手指の消毒法、手の拭き方
3	第1章手術チームでの動物看護師の役割と準備	ガウンとグローブの装着法
4	第2章術前準備	術前準備と術前手続き
5	第2章術前準備	術前準備と術前手続き
6	第2章術前準備	手術準備室と手術室の準備
7	第2章術前準備	動物の術前準備
8	第2章術前準備	麻酔の準備、手術時のポジショニング
9	第2章術前準備	消毒の準備・術野の消毒法・ドレープの装着
10	第6章外科器具	一般的な手術器具と使用法・メス・ハサミ・ピンセット
11	第6章外科器具	一般的な手術器具と使用法・メス・ハサミ・ピンセット
12	第6章外科器具	一般的な手術器具と使用法・メス・ハサミ・ピンセット
13	第6章外科器具	一般的な手術器具と使用法・鉗子・持針器・リトラクター
14	第6章外科器具	一般的な手術器具と使用法・鉗子・持針器・リトラクター
15	第6章外科器具	整形外科器具とその使用法
16	第6章外科器具	歯科器具の名称と使用法
17	第6章外科器具	歯科器具の名称と使用法
18	第6章外科器具	手術器具の手入れ方法とその維持管理
19	第5章縫合材料と縫合法	縫合針・一般的な縫合法
20	第5章縫合材料と縫合法	一般的な縫合法
21	第5章縫合材料と縫合法	一般的な縫合法
22	第5章縫合材料と縫合法	縫合糸の分類・縫合糸の特徴・縫合糸のサイズ
23	第5章縫合材料と縫合法	一般的な縫合糸の種類と特徴・縫合糸の包装
24	第5章縫合材料と縫合法	縫合糸の代替品・縫合糸の選択基準
25	第6章外科器具	滅菌準備
26	第6章外科器具	手術器具の滅菌
27	第6章外科器具	手術器具の滅菌
28	第6章外科器具	一般的な縫合法
29	第6章外科器具	一般的な縫合法
30	第6章外科器具	代表的な医療器具

# 東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物外科看護学Ⅱ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	講義
担当教員	菅谷茜(獣医師)・佐々木ルリ工(獣医師)		
授業概要	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。		
到達目標	外傷、創傷管理、術前準備、麻酔、術中補助、術後管理、救急救命、動物理学療法について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻 動物外科看護学		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

## 授業計画及び学習の内容

1	第3章麻酔・鎮静処置	麻酔あるいは鎮静処置時における動物看護師の役割
2	第3章麻酔・鎮静処置	麻酔あるいは鎮静処置の適応とリスク
3	第3章麻酔・鎮静処置	麻酔あるいは鎮静処置時に特有の問診
4	第3章麻酔・鎮静処置	麻酔あるいは鎮静処置前に実施される検査
5	第3章麻酔・鎮静処置	注射麻酔・鎮静に関わる手技(局所麻酔を含む)
6	第3章麻酔・鎮静処置	吸入麻酔に関わる手技
7	第3章麻酔・鎮静処置	導入時・覚醒時のリスクと対処
8	第3章麻酔・鎮静処置	麻酔看視項目・麻酔記録の作成法
9	第3章麻酔・鎮静処置	麻酔あるいは鎮静処置に伴う疼痛管理
10	第4章術中補助・術後管理	術中動物看護の役割と必要な動物看護援助・術直後動物看護の役割と必要な動物看護援助
11	第4章術中補助・術後管理	術後動物看護の役割と必要な動物看護援助・縫合剤と手術器具・直接補助と間接補助を行う動物看護師
12	第4章術中補助・術後管理	直接補助の業務(手術前の心構え・予定術式の確認・手洗い)
13	第4章術中補助・術後管理	直接補助の業務(ガウンの着用・グローブの装着・手術器具と器具台の準備・器械出しなど)
14	第4章術中補助・術後管理	間接補助の業務(予定術式の確認・手術室の準備など)
15	第4章術中補助・術後管理	間接補助の業務(麻酔の準備・麻酔導入の補助・モニター装着と動物の固定・術野の消毒など)
16	第7章創傷管理と包帯法	創傷の分類・手術後の創傷管理
17	第7章創傷管理と包帯法	創傷の分類・手術後の創傷管理
18	第7章創傷管理と包帯法	ドレッシング法実施時の創傷管理・包帯法(バンデージ)
19	第7章創傷管理と包帯法	包帯法(バンデージ)
20	第7章創傷管理と包帯法	褥瘡の予防
21	第8章創傷管理と包帯法	褥瘡の予防
22	第8章救急救命法	生命徴候のアセスメント・動物の呼吸を楽にする姿勢
23	第8章救急救命法	循環管理、保温・止血法・気管内挿管
24	第8章救急救命法	心肺蘇生処置・その他の救急救命処置に関わる状態
25	第9章動物の機能回復	基本的な活動性と動作能力・活動・運動能力に対するアセスメント・活動・運動能力に対する援助方法
26	第9章動物の機能回復	対象動物の体位変換
27	第9章動物の機能回復	リハビリテーションと動物の理学療法
28	第9章動物の機能回復	代表的な理学療法の原理と手技・マッサージ・ストレッチ
29	第9章動物の機能回復	代表的な理学療法の原理と手技・運動療法(エクササイズ)
30	第9章動物の機能回復	代表的な理学療法の原理と手技・物理療法

# 東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	適正飼養指導論 I	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	講義
担当教員	吉本斐香(愛玩動物看護師)		
授業概要	愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。		
到達目標	愛玩動物の飼養、適正飼養の推進、災害危機管理と支援、動物愛護管理行政について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻 適正飼養指導論		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		
<b>授業計画及び学習の内容</b>			
1	第1章愛玩動物の飼養	適正飼養とは	
2	第1章愛玩動物の飼養	動物福祉から考えた適正飼養	
3	第1章愛玩動物の飼養	必要なしつけを行う・適切な頭数での飼育	
4	第1章愛玩動物の飼養	適正飼養と飼育マナー・飼い主の責務	
5	第1章愛玩動物の飼養	愛玩動物飼養の現状	
6	第1章愛玩動物の飼養	動物を飼うことについての問題点	
7	第1章愛玩動物の飼養	愛玩動物によって人間が受ける影響と問題点	
8	第1章愛玩動物の飼養	動物が与える人の生理的、身体的効果、動物が与える社会的効果	
9	第1章愛玩動物の飼養	動物がいることによる3つの効果・動物の効果についてのパラメーター・動物の飼育によるネガティブな影響	
10	第2章動物終末期(飼い主)ケア	動物終末期(飼い主)ケアの総論と動物看護師の役割	
11	第2章動物終末期(飼い主)ケア	飼い主の要因を考える・動物看護師(獣医師)側の要因を考える・終末期ケアによくある悪い知らせを伝える技法を使う	
12	第2章動物終末期(飼い主)ケア	終末期に提供される安楽死と火葬と埋葬時の配慮をする・ペットロス回避するために飼い主を意思決定過程に積極的に関与させる	
13	第2章動物終末期(飼い主)ケア	グリーフとは・ペットのグリーフ・グリーフケアのコミュニケーションの実践	
14	第2章動物終末期(飼い主)ケア	ペットロスの定義・ペットロスの対象動物・ペットロスに影響する要因・医療の介入の必要なペットロス・ペットロスに対する現場での動物看護師の対応	
15	ふりかえり		
16	第3章適正飼養の推進	適正飼養に関する支援の目的と活動(民間団体等によるものを含む)	
17	第3章適正飼養の推進	動物取扱業者における適正飼養・犬猫の飼養管理基準	
18	第3章適正飼養の推進	愛玩動物の過剰繁殖の問題とその対策・法律等による規制	
19	第3章適正飼養の推進	問題行動予防のための適切な飼養方法としつけ・飼い主に指導すべき事項や方法	
20	第3章適正飼養の推進	動物の適切な選択	
21	第3章適正飼養の推進	十分な社会化	
22	第3章適正飼養の推進	子犬教室	
23	第3章適正飼養の推進	子猫教室	
24	第3章適正飼養の推進	子犬教室や子猫教室のメリット	
25	第3章適正飼養の推進	適切な環境の提供	
26	第3章適正飼養の推進	飼い主と動物の絆の構築	
27	第3章適正飼養の推進	適切なしつけ	
28	第3章適正飼養の推進	不妊・去勢手術	
29	第3章適正飼養の推進	問題行動に関する知識の提供・動物病院とドッグトレーナーの役割分担	
30	ふりかえり	ふりかえり	

# 東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	適正飼養指導論Ⅱ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	講義
担当教員	堀内香(獣医師)		
授業概要	愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。		
到達目標	愛玩動物の飼養、適正飼養の推進、災害危機管理と支援、動物愛護管理行政について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻 適正飼養指導論		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

## 授業計画及び学習の内容

1	第4章災害危機管理と支援	災害時におけるペットの救護対策ガイドライン・ガイドラインの策定の背景
2	第4章災害危機管理と支援	ガイドラインで用いられる主な用語の解説
3	第4章災害危機管理と支援	同行避難を推進する背景・同行避難の課題・災害関連法規における同行避難
4	第4章災害危機管理と支援	災害時の対応は飼い主による「自助」が基本
5	第4章災害危機管理と支援	平常時および災害時の飼い主の備え、飼養管理周辺の防災対策
6	第4章災害危機管理と支援	ペットの所有者明示、ペットのしつけと健康管理
7	第4章災害危機管理と支援	ペット用の避難用品に備蓄品の確保・情報収取と避難訓練・一時預かり先の確保
8	第4章災害危機管理と支援	災害発生時における飼い主の備え・動物看護師の平常時における役割
9	第4章災害危機管理と支援	動物由来感染症を含めたペットの防災・減災の啓発
10	第4章災害危機管理と支援	災害時のボランティアの人材に登録・指定避難所でのペットの同行避難者の受け入れルールを構築
11	第4章災害危機管理と支援	応急仮設住宅でのペットの同居の飼養ルールを構築・必要な物資の備蓄・更新
12	第4章災害危機管理と支援	避難所までの誘導は飼い主の安全確保、状況確認が必要、指定避難所でのペットの同行避難の受け入れ
13	第4章災害危機管理と支援	動物間の感染症及び動物由来の人獣共通感染症の衛生管理、義援金の募集方法の検討
14	第4章災害危機管理と支援	応急仮設住宅での入居者の対応、各種団体と協同していく方法
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第5章動物愛護管理行政	公衆衛生と動物愛護管理・動物愛護管理センター
17	第5章動物愛護管理行政	動物愛護管理担当職員・動物愛護推進員
18	第5章動物愛護管理行政	動物愛護推進協議会・動物愛護週間と動物愛護教育
19	第5章動物愛護管理行政	適正飼養の普及啓発
20	第5章動物愛護管理行政	動物飼養者への指導
21	第5章動物愛護管理行政	多頭飼育問題(犬)
22	第5章動物愛護管理行政	多頭飼育問題(猫)
23	第5章動物愛護管理行政	動物による事故・愛玩動物看護師と適正飼養
24	第5章動物愛護管理行政	犬・猫の引取り及び負傷動物などの収容
25	第5章動物愛護管理行政	犬の引き取りと収容・猫の引き取りと収容
26	第5章動物愛護管理行政	負傷動物の収容・これからの課題
27	第5章動物愛護管理行政	動物取扱業者の規制
28	第5章動物愛護管理行政	動物取扱業者の監視指導
29	第5章動物愛護管理行政	動物取扱責任者
30	ふりかえり	ふりかえり

# 東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物内科看護学実習Ⅲ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	実習
担当教員	佐々木ルリエ(獣医師)・菅谷茜(獣医師)		
授業概要	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。		
到達目標	診療補助と身体検査、輸液管理、輸血管理、注射器の取扱い、動物看護技術の実践と応用、マイクロチップの装着、X線検査、超音波検査、心電図検査、皮膚検査と耳検査、神経学的検査、眼科検査について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト第3版		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

## 授業計画及び学習の内容

1	第2章第2節輸液管理	血管確保、事前準備
2	第2章第2節輸液管理	輸液ポンプの接続
3	第2章第2節輸液管理	輸液ポンプの操作
4	第2章第2節輸液管理	輸液中の観察、看護動物のモニタリング(観察・記録)
5	第2章第2節輸液管理	投与後の処置(一次的に中断する場合、留置針抜去)
6	第2章第2節輸液管理	輸液中の警報(閉塞警報、滴下異常警報、気泡警報)
7	第2章第2節輸液管理	シリンジポンプの接続・取扱い
8	第2章第2節輸液管理	皮下輸液(補液)
9	第2章第2節輸液管理	輸液量と輸液速度の計算
10	第2章第3節輸血管理	輸血とは、輸血用血液採取
11	第2章第3節輸血管理	輸血バッグによる採決、全血の保存、輸血法、モニタリング
12	第2章第3節輸血管理	輸血バッグによる採決、全血の保存、輸血法、モニタリング
13	第2章第6節マイクロチップの装着	マイクロチップの挿入部位と基礎知識
14	第2章第6節マイクロチップの装着	マイクロチップの装着手順
15	第2章第6節マイクロチップの装着	マイクロチップの登録、専用リーダーの取扱い
16	第2章第8節超音波検査	超音波検査の仕組み
17	第2章第8節超音波検査	検査前の準備・看護動物の処置
18	第2章第8節超音波検査	超音波診断の準備
19	第2章第8節超音波検査	検査目的に合った動物のポジショニング
20	第2章第8節超音波検査	超音波検査の取扱い
21	第2章第7節X線検査	X線とは
22	第2章第7節X線検査	X線に必要な条件
23	第2章第7節X線検査	撮影フィルムに影響を与える散乱線
24	第2章第7節X線検査	グリッドの使用
25	第2章第7節X線検査	撮影に必要な器具
26	第2章第7節X線検査	カセットおよびフィルムの取扱い
27	第2章第7節X線検査	CR(Computed Radiography)システム
28	第2章第7節X線検査	撮影目的に合った動物のポジショニング・正しいポジショニング
29	第2章第7節X線検査	X線撮影の方向とポジショニング
30	第2章第7節X線検査	適切な現像と管理

# 東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物内科看護学実習Ⅳ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	実習
担当教員	佐々木ルリエ(獣医師)・菅谷茜(獣医師)・安田一敏(獣医師)		
授業概要	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。		
到達目標	診療補助と身体検査、輸液管理、輸血管理、注射器の取扱い、動物看護技術の実践と応用、マイクロチップの装着、X線検査、超音波検査、心電図検査、皮膚検査と耳検査、神経学的検査、眼科検査について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト第3版		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

## 授業計画及び学習の内容

1	第2章第7節X線検査	フィルムおよびデータの管理
2	第2章第7節X線検査	X線フィルムの基本的な読影
3	第2章第7節X線検査	X線撮影に従事する者の各種報告の義務
4	第2章第7節X線検査	DRについて
5	第2章第7節超音波検査	CT検査・MRI検査
6	第2章第8節超音波検査	CT検査・MRI検査
7	第2章第9節心電図検査	心電図の原理
8	第2章第9節心電図検査	心臓の機能・正常波形
9	第2章第9節心電図検査	心電図の取扱いと操作・記録紙の見方・動物のポジショニング
10	第2章第10節皮膚検査と耳検査	皮膚検査
11	第2章第10節皮膚検査と耳検査	皮膚検査
12	第2章第10節皮膚検査と耳検査	皮膚検査
13	第2章第10節皮膚検査と耳検査	耳検査
14	第2章第10節皮膚検査と耳検査	耳検査
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第2章第11節神経学的検査	姿勢反応試験
17	第2章第11節神経学的検査	姿勢反応試験
18	第2章第11節神経学的検査	脊髄反射試験
19	第2章第11節神経学的検査	脊髄反射試験
20	第2章第11節神経学的検査	脳神経機能試験
21	第2章第11節神経学的検査	脳神経機能試験
22	第2章第12節眼科検査	視診・視覚検査
23	第2章第12節眼科検査	シルマー涙液試験
24	第2章第12節眼科検査	フルオレセイン染色
25	第2章第12節眼科検査	眼圧測定
26	第2章第12節眼科検査	検眼鏡検査
27	第2章第12節眼科検査	スリットランプ検査
28	第2章第12節眼科検査	眼底検査
29	第2章第12節眼科検査	眼科検査の保定
30	ふりかえり	ふりかえり

# 東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物外科看護学実習Ⅰ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	実習
担当教員	菅谷茜(獣医師)		
授業概要	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。		
到達目標	手術関連業務、術前術後の看護、麻酔、鎮痛、麻酔モニタリング、外科に関する技術の実践と応用、救急救命について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

## 授業計画及び学習の内容

1	第4章第1節	手術関連業務	リネン類等の種類と準備
2	第4章第1節	手術関連業務	リネン類等の種類
3	第4章第1節	手術関連業務	リネン類等の種類
4	第4章第2節	術前の看護	手洗いおよび手術衣、手袋の着用
5	第4章第2節	術前の看護	手術用の手洗い(スクラブ法・ラビング法)
6	第4章第2節	術前の看護	手術衣の着用の手順・手袋の着用
7	第4章第1節	手術関連業務	手術器具の種類と目的
8	第4章第1節	手術関連業務	手術に使用する医療機器(麻酔器)
9	第4章第1節	手術関連業務	手術に使用する医療機器(麻酔器)
10	第4章第1節	手術関連業務	手術に使用する医療機器(生体情報モニター)
11	第4章第1節	手術関連業務	手術に使用する医療機器(点滴装置)
12	第4章第1節	手術関連業務	手術に使用する医療機器(点滴装置)
13	第4章第1節	手術関連業務	手術器具(メス・剪刀(ハサミ))
14	第4章第1節	手術関連業務	手術器具(メス・剪刀(ハサミ))
15	第4章第1節	手術関連業務	手術器具(ピンセット・鉗子・持針器)
16	第4章第1節	手術関連業務	その他の手術に必要な器具(挿管セット)
17	第4章第1節	手術関連業務	その他の手術に必要な器具(挿管セット)
18	第4章第1節	手術関連業務	その他の手術に必要な器具(挿管セット)
19	第4章第1節	手術関連業務	縫合糸・縫合針の種類と特性
20	第4章第1節	手術関連業務	縫合糸
21	第4章第1節	手術関連業務	縫合針
22	第4章第1節	手術関連業務	滅菌に使用する器具
23	第4章第1節	手術関連業務	滅菌方法(高圧蒸気滅菌)
24	第4章第1節	手術関連業務	滅菌方法(ガス滅菌)
25	第4章第2節	術前の看護	術野の毛刈りと消毒で準備するもの
26	第4章第2節	術前の看護	剃毛の手順
27	第4章第2節	術前の看護	洗浄・消毒の手順
28	第4章第2節	術前の看護	気管挿管で準備するもの
29	第4章第2節	術前の看護	気管挿管の事前準備
30	第4章第2節	術前の看護	挿管の手順

# 東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物外科看護学実習Ⅱ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	実習
担当教員	菅谷茜(獣医師)・佐々木リエ(獣医師)		
授業概要	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。		
到達目標	手術関連業務、術前術後の看護、麻酔、鎮痛、麻酔モニタリング、外科に関する技術の実践と応用、救急救命について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

## 授業計画及び学習の内容

1	第4章第3節 麻酔・鎮痛	麻酔薬・鎮痛薬の関連法規：医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律
2	第4章第3節 麻酔・鎮痛	薬剤師法・麻薬及び向精神薬取締法
3	第4章第3節 麻酔・鎮痛	薬物の規制区分
4	第4章第3節 麻酔・鎮痛	麻酔前投与の種類と作用
5	第4章第3節 麻酔・鎮痛	麻酔薬の投与方法
6	第4章第3節 麻酔・鎮痛	麻酔薬の種類と作用
7	第4章第3節 麻酔・鎮痛	麻酔薬使用時の注意点
8	第4章第3節 麻酔・鎮痛	麻酔器の名称と構造
9	第4章第3節 麻酔・鎮痛	麻酔器の日常管理・麻酔器の始業点検
10	第4章第3節 麻酔・鎮痛	麻酔記録とバイタルサイン評価
11	第4章第3節 麻酔・鎮痛	麻酔記録とバイタルサイン評価
12	第4章第3節 麻酔・鎮痛	麻酔記録とバイタルサイン評価
13	第4章第4節 麻酔モニタリング	術前のふりかえり
14	第4章第4節 麻酔モニタリング	術前のふりかえり
15	第4章第4節 麻酔モニタリング	術前のふりかえり
16	第4章第4節 麻酔モニタリング	麻酔器の呼吸回路(リークテスト)
17	第4章第4節 麻酔モニタリング	モニター機器の仕組み
18	第4章第4節 麻酔モニタリング	モニター機器の装着方法
19	第4章第4節 麻酔モニタリング	モニター機器の装着方法
20	第4章第4節 麻酔モニタリング	モニター画面の数値と観察項目
21	第4章第4節 麻酔モニタリング	術中のバイタルサイン評価
22	第4章第4節 麻酔モニタリング	麻酔導入時の操作・麻酔濃度の調整
23	第4章第4節 麻酔モニタリング	麻酔終了時の操作・補助呼吸及び人工呼吸器
24	第4章第4節 麻酔モニタリング	人工呼吸器の装着・補助呼吸
25	第4章第2節 術後の看護	術後の管理、抜糸の補助
26	第4章第2節 術後の看護	術後の管理、抜糸の補助
27	第4章第2節 術後の看護	術後の管理、抜糸の補助
28	第4章第1節 手術関連業務	歯科処置と看護のケア/歯石除去手術(スケーリング)
29	第4章第1節 手術関連業務	歯石除去手術(スケーリング)
30	第4章第1節 手術関連業務	歯石除去手術(スケーリング)

# 東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物臨床検査学実習Ⅱ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	実習
担当教員	菅谷 茜(獣医師)・池田 亜紀子(獣医師)		
授業概要	検体検査に必要な手技や機器の扱い方など動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。		
到達目標	検体採取・処理の手順の習得、血液採取法と各成分に応じた保存法、血液抗凝固剤の種類と特徴、尿採取法と保存法、採便法と保存法、貯留液処理における採取法と保存法を理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		

## 授業計画及び学習の内容

1	第3章第3節 尿検査	物理学的性状検査・検査項目
2	第3章第3節 尿検査	手技
3	第3章第3節 尿検査	化学的検査
4	第3章第3節 尿検査	顕微鏡学的検査:尿沈渣
5	第3章第3節 尿検査	手技
6	第3章第3節 尿検査	手技
7	第3章第4節 糞便検査	物理学的性状検査の手技
8	第3章第4節 糞便検査	顕微鏡学的検査:直接塗抹法の検査項目
9	第3章第4節 糞便検査	直接塗抹法の手技
10	第3章第4節 糞便検査	集卵法の手技
11	第3章第4節 糞便検査	集卵法の検査項目
12	第3章第4節 糞便検査	集卵法の手技(試験管を用いた集卵法)
13	第3章第4節 糞便検査	簡易キットを用いた免疫学的検査
14	第3章第4節 糞便検査	まとめ
15	尿検査・糞便検査	尿検査・糞便検査
16	第3章第5節 細胞診	病理検査における細胞診・細胞診に必要な器材
17	第3章第5節 細胞診	細胞診の長所と欠点
18	第3章第5節 細胞診	検体の種類と採取法
19	第3章第5節 細胞診	検体処理法
20	第3章第5節 細胞診	検体処理法における注意点
21	第3章第5節 細胞診	染色法・病理組織学的検査
22	第3章第6節 微生物学的検査	細菌および真菌培養検査の意義
23	第3章第6節 微生物学的検査	細菌および真菌培養検査の意義
24	第3章第6節 微生物学的検査	細菌培養手技
25	第3章第6節 微生物学的検査	真菌培養検査
26	第3章第6節 微生物学的検査	真菌培養検査
27	第3章第6節 微生物学的検査	グラム染色の手順
28	第3章第6節 微生物学的検査	基本的な菌の同定
29	第3章第6節 微生物学的検査	基本的な菌の同定
30	ふりかえり	ふりかえり

# 東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物愛護・適正飼養実習 I	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	実習
担当教員	芝田早苗・中村知里・関口和実・村瀬英博・村瀬真平		
授業概要	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標	愛玩動物の特徴と基本的な取扱い、エキゾチックアニマルの特徴と基本的な取扱い、ドッグトレーニング、グルーミング、口腔内衛生管理、飼い主とのコミュニケーション、動物愛護管理行政について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト・第3版・猫の教科書(緑書房)		
評価方法	出席率2/3以上・実技試験		
<b>授業計画及び学習の内容</b>			
1	第6章第1節 愛玩動物の特徴と基本的な取扱い	犬の飼育管理 排泄の正常と異常	
2	第6章第1節 愛玩動物の特徴と基本的な取扱い	犬の飼育管理 犬の口腔内の構造、歯列、歯式、疾患、予防	
3	第6章第1節 愛玩動物の特徴と基本的な取扱い	犬の品種による身体の特徴	
4	第6章第1節 愛玩動物の特徴と基本的な取扱い	犬の品種による身体の特徴・基本的な動作・特徴	
5	第6章第1節 愛玩動物の特徴と基本的な取扱い	犬のケージの衛生管理・食事管理	
6	第6章第1節 愛玩動物の特徴と基本的な取扱い	犬のハンドリング・扱い方	
7	第6章第4節 グルーミング	犬のグルーミングについて	
8	第6章第4節 グルーミング	犬のシャンプー、トリートメント剤の種類	
9	第6章第4節 グルーミング	犬のシャンプーと薬浴	
10	第6章第4節 グルーミング	犬のブラッシング、コーミング	
11	第6章第4節 グルーミング	犬のドライング	
12	第6章第4節 グルーミング	犬の爪切り	
13	第6章第4節 グルーミング	犬の耳掃除、犬の肛門嚢しぼり	
14	第6章第4節 グルーミング	クリッパーを使ったクリッピング	
15	第6章第4節 グルーミング	犬の高齢動物や罹患動物のケア・エンゼルケア	
16	第6章第6節 ドッグトレーニング	基本的な訓練法(古典的/オペラント条件づけについて、ご褒美について)	
17	第6章第6節 ドッグトレーニング	基本的な訓練法(アイコンタクト、お散歩の導入部分、しつけグッズ)	
18	第6章第6節 ドッグトレーニング	基本的な訓練法(アイコンタクト、お散歩、しつけグッズ)	
19	第6章第6節 ドッグトレーニング	基本的な訓練法(アイコンタクト、お散歩、オスワリ等の導入部分)	
20	第6章第6節 ドッグトレーニング	基本的な訓練法(アイコンタクト、マテ等の導入部分)	
21	第6章第6節 ドッグトレーニング	基本的な訓練法(アイコンタクト、フセ等の導入部分)	
22	第6章第6節 ドッグトレーニング	基本的な訓練法(アイコンタクト、お散歩等)	
23	第6章第6節 ドッグトレーニング	基本的な訓練法(オスワリ、マテ、フセ等)	
24	第6章第6節 ドッグトレーニング	基本的な訓練法(オスワリ、マテ、フセ等)	
25	第6章第6節 ドッグトレーニング	基本的な訓練法(お散歩、オスワリ、マテ、フセ等の実生活に於けるしつけ応用)	
26	第6章第6節 ドッグトレーニング	大型犬の保定	
27	第6章第6節 ドッグトレーニング	大型犬の保定	
28	第6章第6節 ドッグトレーニング	基本的な訓練法(お散歩、オスワリ、マテ、フセ等の実生活に於けるしつけ応用)	
29	第6章第6節 ドッグトレーニング	大型犬の保定	
30	第6章第6節 ドッグトレーニング	大型犬の保定	

# 東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物愛護・適正飼養実習Ⅱ	必修・選択区分	必修
		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	実習
担当教員	吉本斐香(愛玩動物看護師)・利根川紘子・山崎育子		
授業概要	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標	愛玩動物の特徴と基本的な取扱い、エキゾチックアニマルの特徴と基本的な取扱い、ドッグトレーニング、グルーミング、口腔内衛生管理、飼い主とのコミュニケーション、動物愛護管理行政について理解する。		
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト・第3版・猫の教科書(緑書房)		
評価方法	出席率2/3以上・定期試験		
授業計画及び学習の内容			
1	第6章第1節 愛玩動物の特徴と基本的な取扱い	愛玩鳥の飼育管理	
2	第6章第1節 愛玩動物の特徴と基本的な取扱い	愛玩鳥の飼育管理	
3	第6章第1節 愛玩動物の特徴と基本的な取扱い	愛玩鳥の飼育管理	
4	第6章第2節 エキゾチックアニマルの特徴と基本的な取扱い	エキゾチックアニマルとは	
5	第6章第2節 エキゾチックアニマルの特徴と基本的な取扱い	ウサギ	
6	第6章第2節 エキゾチックアニマルの特徴と基本的な取扱い	ハムスター・フェレット	
7	第6章第6節 飼い主とのコミュニケーション	犬の飼い主が法令に基づき遵守すべき対応、犬の飼い主の責務	
8	第6章第6節 飼い主とのコミュニケーション	マイクロチップに関する決まり、装着、登録、ペットの迷子、保護	
9	第6章第6節 飼い主とのコミュニケーション	マイクロチップに関する決まり、装着、登録、ペットの迷子、保護	
10	第6章第6節 飼い主とのコミュニケーション	動物の飼養困難者への支援、多頭飼育、問題行動への対策	
11	第6章第6節 飼い主とのコミュニケーション	傷病野生動物、災害時の飼い主の支援	
12	第6章第7節 動物愛護管理行政	動物愛護管理センターへの活動	
13	第6章第7節 動物愛護管理行政	動物取扱業者へ指導すべき内容	
14	第6章第7節 動物愛護管理行政	動物取扱業における顧客への対応	
15	ふりかえり	ふりかえり	
16	第6章第1節 愛玩動物の特徴と基本的な取扱い	猫の飼育管理	
17	第6章第1節 愛玩動物の特徴と基本的な取扱い	猫の排泄の正常と異常	
18	第6章第1節 愛玩動物の特徴と基本的な取扱い	猫の品種による違い	
19	第6章第1節 愛玩動物の特徴と基本的な取扱い	猫の性別による基本的な動作・特徴	
20	第6章第1節 愛玩動物の特徴と基本的な取扱い	猫のケージの衛生管理・食事管理	
21	第6章第1節 愛玩動物の特徴と基本的な取扱い	猫のハンドリング・扱い方	
22	第6章第4節 グルーミング	猫のグルーミング	
23	第6章第4節 グルーミング	猫のクリッピング	
24	第6章第4節 グルーミング	猫のクリッピング	
25	第6章第4節 グルーミング	猫の爪切り	

授業計画及び学習の内容		
26	第6章第4節 グルーミング	猫の高齢動物や罹患動物のケア・エンゼルケア
27	第6章第6節 飼い主とのコミュニケーション	猫の飼い主の責務
28	第6章第5節 口腔内衛生管理	猫の口腔内の構造、歯列、歯式
29	第6章第5節 口腔内衛生管理	猫の口腔内の疾患
30	第6章第5節 口腔内衛生管理	猫の口腔疾患の予防、デンタルケア

東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	動物看護総合実習ⅠⅡⅢ (動物病院実習)	必修・選択区分	必修
		時間数	90
対象年次	2年	授業形態	実習
担当教員	今瑞穂(愛玩動物看護師)		
授業概要	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。		
到達目標	動物病院実習を経て、動物看護業務の理解、動物看護業務の体験、動物看護業務の実践のために知識とスキルを習得する。		
テキスト・参考書等	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。		
評価方法	原則、規定された日数における実習参加・レポート提出		

授業計画及び学習の内容

動物看護総合実習Ⅰ	1	動物病院実習 事前説明(7月)	
	2	動物病院実習 事前説明(2月)	
	3	動物病院実習 事前説明(2月)	
	4～30	動物病院実習Ⅰ	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。
動物看護総合実習Ⅱ	31～60	動物病院実習Ⅱ	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。
動物看護総合実習Ⅲ	61～87	動物病院実習Ⅲ	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。
	88～90	動物病院実習 発表	

東京愛犬専門学校 動物看護学科			
授業科目	グルーミング実習Ⅲ	必修・選択区分	必修
		時間数	105
対象年次	2年	授業形態	実習
担当教員	植村豊、田下政雄、飯田美雪、芝田早苗、中村知里、関口和実、若林智子、利根川紘子、小美野夏帆美、秋葉雅心、佐野萌衣、新里碧、浅井あずさ、内堀快晴、佐藤圭太郎、鈴木時枝、矢島英子		
授業概要	代表的な犬種(長毛犬種・プードル種・スパニエル種・テリア種)においての様々なライフステージや疾患を罹患している際に安全にメディカルグルーミングを実施するための知識やスキルを習得する。		
到達目標	グルーミング、トリミングの目的や必要性を理解し実習において実践する。		
テキスト・参考書等	最新ドッググルーミングマニュアル(公認トリマー教本)、JKC全犬種標準書、ドッググルーミングブック(緑書房)、プードル・トリミングの教科書(Eduward press)、愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書第6巻愛玩動物学(Eduward press)		
評価方法	出席率2/3以上・グルーミング実習Ⅳ(ライセンス試験有)		
<b>授業計画及び学習の内容</b>			
1～105	グルーミング実習	長毛犬種(マルチーズ、シーズー、ポメラニアン、ヨークシャーテリア、シェットランド・シープドッグ)、プードル、テリア種(エアデールテリア、ベドリントン・テリア)(トレーニング6時間)	

東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	グルーミング実習Ⅳ	必修・選択区分	必修
		時間数	90
対象年次	2年	授業形態	実習
担当教員	植村豊、田下政雄、飯田美雪、芝田早苗、中村知里、関口和実、若林智子、利根川紘子、小美野夏帆美、秋葉雅心、佐野萌衣、新里碧、浅井あずさ、内堀快晴、佐藤圭太郎、鈴木時枝、矢島英子		
授業概要	代表的な犬種(長毛犬種・プードル種・スパニエル種・テリア種)においての様々なライフステージや疾患を罹患している際に安全にメディカルグルーミングを実施するための知識やスキルを習得する。		
到達目標	グルーミング、トリミングの目的や必要性を理解し実習において実践する。		
テキスト・参考書等	最新ドッググルーミングマニュアル(公認トリマー教本)、JKC全犬種標準書、ドッググルーミングブック(緑書房)、プードル・トリミングの教科書(Eduward press)、愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書第6巻愛玩動物学(Eduward press)		
評価方法	出席率2/3以上・グルーミング実習Ⅳ(ライセンス試験有)		
<b>授業計画及び学習の内容</b>			
1～78	グルーミング実習	長毛犬種(マルチーズ、シーザー、ポメラニアン、ヨークシャーテリア、シェットランド・シープドッグ)、プードル、テリア種(エアデールテリア、ベドリントン・テリア)	
79～90	ライセンス試験(C級)	6月～7月に1日×2回(2日分)で実施予定	

# 東京愛犬専門学校 動物看護学科

授業科目	総合学習Ⅱ	必修・選択区分	必修
		時間数	51
対象年次	2年	授業形態	
担当教員	今瑞穂(愛玩動物看護師)・担任・外部講師		
授業概要	探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。		
到達目標	就職活動や就職後に必要なビジネススキルを身に付ける。		
テキスト・参考書等			
評価方法	出席率2/3以上		

## 授業計画及び学習の内容

1		
2	課外研修①	FCIドッグショー 見学 前期
3		
4	課外研修②	FCIドッグショー 見学 前期
5		
6		
7	特別講義①	シャンプーマシーンメーカー
8		
9		
10	旅行説明	旅行前説明
11		
12		
13	研修旅行①	フィールドトライアル研修旅行
14		
15	研修旅行①	
16		
17	研修旅行②	
18		
19	研修旅行②	
20		
21	研修旅行③	
22		
23	研修旅行③	
24		
25		
26	課外研修③	FCIドッグショー 見学 後期
27		
28	特別講義②	
29		
30		
31	動物看護技術学①	
32	動物看護技術学②	
33	動物看護技術学③	
34	動物看護技術学④	
35	動物看護技術学⑤	
36	動物看護技術学⑥	
37	動物看護技術学⑦	
38	動物看護技術学⑧	
39	動物看護技術学⑨	
40	動物看護技術学⑩	
41	動物看護技術学⑪	
42	動物看護技術学⑫	
43	動物看護技術学⑬	
44	動物看護技術学⑭	
45	動物看護技術学⑮	